

一つの授業先生5人



1面から続く

「なにかな」

順番に読んでいく。中ほどの列の男の子に回ってきた。「お・れ・し・い・ひ」

「お・れ・し・い・ひ」

「笑わない」。先生の声が厳しくなった。「できないことをできるようにするのが学校なんだよ」。男の子には通訳兼日本語指導員の藤本真理さんが寄り添う。教室には柴田先生を含め大人が5人。

教育委員会が特別に追加配置した教員5人、指導員4人。国語と算数は全学年、6年生は社会科でも、複数の大人が教室に入ったり、逆に数人を別教室に「取り出し」たりして教える。1月には日本語力テストで理解度を調べ、指導法を個別に決める検討会が年2回ある。

この手厚い体制とノウハウが「日本一」と呼ばれるもう一つのゆえんで、日本人の子にも基礎が身につく効果が上がっているという。だが、他の自治体では、なかなかまね

外国人教育で、二つの意味で「日本一」と言われる公立小学校が、自動車の街、愛知県豊田市にある。

「はい・手は・おひさ」

市立西保見小学校の1年生27人を見渡しながら、担任の柴田みどり先生はひと言ずつ、区切って話す。

全校児童の55%が外国籍で、公立小ではおそらく日本一。大半がブラジル人だ。特に1年生では7割を占める。

多くの子は道路を隔てた保見団地から通う。90年の入管法改正で日系人の在留資格が緩和され、特に日系ブラジル人の入居が相次いだ。

国語の授業。柴田先生は、黒板に紙を張った。

「うれしいひ」「おや」

「がんばれ」。うんていを進むブラジルの子に声援が飛ぶ＝愛知県豊田市の西保見小、片山写す



のできることはない。

1年生を帰すと、柴田先生が今日の失敗を振り返った。「『最初に』と言ったらみんなキョトンとしていて、『はじめに』と言い直した」。授業を進めるのも大事だが、日本人と外国人が一緒に頑張る体験を重ねたい、と思う。

休み時間には日本語とポルトガル語が響く。6年生の教室をのぞくと、日本とブラジルの子が下級生と遊ぶ会について話し合っていた。「学校が楽しい。日本人とブラジル

人、両方の友だちと遊べるから」。コンスタンシオ・アユミさん(11)は言う。

大阪市のベッドタウン、大阪府門真市にある市立砂子小学校。全校児童の4分の1にあたる99人が中国にゆかりがあり、その多くが中国残留日本孤児の3世と4世だ。空き教室をのぞくと、先生2人が、5年生5人を2グループに分け、漢字を教えていた。「日」という漢字をまず

書いてみて。あと1画加えると、別の漢字が8個できます。全部わかるかな？」

子どもたちは週に1〜5コマ、この日本語教室にやってくる。ものの数え方や動作の表現法などを、プリントや絵のついたカードで学ぶ。

両親や祖父母とは、中国語か、限られた単語の日本語で会話する。そのため、日本語の抽象的な単語や慣用語に弱い。言葉に含まれた深い意味や、国語や算数の文章題の出題意図を理解するのに苦労するケースが多いという。

たとえば、「先生、今日は寒いからシャツをかぶってきただ」。また別の子は担任が「よう頭が切れるな。すごいなあ」とほめると、「頭なかケガしてへんやん」。

一部が間仕切りされた隣の部屋から、中国語の「キラキラ星」が聞こえてきた。4年生15人の歌声だった。中国語を

学ぶ「陽光教室」だ。日本語教室と同様、砂子小ができた3年前から本格的に始まった。日本語が上達するにつれ中国語が話せなくなっていく。親子で込み入った会話ができず、進路や思春期の悩みを打ち明けることも難しい。

坂田英夫校長は言う。「母語の基礎がしっかりないと中途半端になる。中国人であることに誇りを持って生きていける子どもたちを育てることも目標なのです」

学ぶ「陽光教室」だ。日本語教室と同様、砂子小ができた3年前から本格的に始まった。

日本語が上達するにつれ中国語が話せなくなっていく。

親子で込み入った会話ができず、進路や思春期の悩みを打ち

明けることも難しい。

坂田英夫校長は言う。

「母語の基礎がしっかりないと中途半端になる。中国人であることに誇りを持って生きていける子どもたちを育てることも目標なのです」

外国人指導が必要な外国

人の子どもを抱える学校は全国に広がる。

文部科学省の調査では06年、公立の小学5高校に2万2413人。調査を始めた91

以降、増加傾向にある。外国人が多い地域では対策

が進む。群馬県太田市教育委員会は4年前、「バイリンガル教員」制度を導入した。日

本以外の教員免許を持つブラ

ジル人教師や、日本の教員免許を取得した日系人ら8人を市費で雇用。追加配置の日本人教諭、日本語指導助手とチームを組み、習熟度別に少人数授業をする。

成果も出始めている。外国人生徒の高校進学率は、5年前の5割から昨年は8割以上に伸びた。

しかし、外国人の子が少

ない場合は対策がとりにく

い。文科省の調査では、5人

未満の学校が8割を占める。

東京外国語大多言語・多文化教育研究センターは昨春、インターネットを使って引き

出せるポルトガル語の教材を開発した。アクセスしてきた

端末の表示言語を調べると、

日本語が半分、ポルトガル語も4割あった。「外国人自身が教材を求めている。彼らが分散している地域に教材の存在をどう知らせるかが課題」とセンター長で日系ブラジル

人が多い浜松市の市長でもあった北脇保之教授は言う。

日本語を習得させる手法でも手探りが続く。

早稲田大学院日本語教育

研究科の川上郁雄教授は、日

本語の能力を「聞く」「話す」「読む」「書く」ことに7段階

で判定する基準をつくった。

この基準を使ってみると、

学校の先生たちは驚く。力が

ついたと「取り出し」指導をやめた子たちが軒並み、「授業

をみんなと一緒に聞くのは難しい」と判定されるからだ。日常会話は1、2年で身

につくが、学習言語能力の育成には5〜7年かかるという。

川上教授は「日本語教育の訓練を受けた教員を配置し、一人ひとりに対応した長期的な支援態勢を確立することが必要だ」と説く。

外国人学校に通う子や学校に行っていない子、状況確認すらできない子もいる。文科省が外国人の多い一部自治体

を通じ05〜06年度に行った調査では、子どもの4割がそんなケースだった。(小河雅

臣、滝沢隆史、片山健志)

い。文科省の調査では、5人

未満の学校が8割を占める。

東京外国語大多言語・多文化教育研究センターは昨春、

インターネットを使って引き出せるポルトガル語の教材を開発した。アクセスしてきた

端末の表示言語を調べると、日本語が半分、ポルトガル語も4割あった。「外国人自身が教材を求めている。彼らが分散している地域に教材の存在をどう知らせるかが課題」とセンター長で日系ブラジル

外国人指導が必要な外国

人の子どもを抱える学校は全

国に広がる。

文部科学省の調査では06

年、公立の小学5高校に2万

2413人。調査を始めた91

以降、増加傾向にある。外国

人の子が多い地域では対策

が進む。群馬県太田市教育委

員会は4年前、「バイリンガ

ル教員」制度を導入した。日

本以外の教員免許を持つブラ

ジル人教師や、日本の教員免

許を取得した日系人ら8人を

市費で雇用。追加配置の日本

人教諭、日本語指導助手とチ

ームを組み、習熟度別に少

人数授業をする。成果も出始

外国人指導が必要な外国

人の子どもを抱える学校は全

国に広がる。

文部科学省の調査では06

年、公立の小学5高校に2万

2413人。調査を始めた91

以降、増加傾向にある。外国

人の子が多い地域では対策

が進む。群馬県太田市教育委

員会は4年前、「バイリンガ

ル教員」制度を導入した。日

本以外の教員免許を持つブラ

ジル人教師や、日本の教員免

許を取得した日系人ら8人を

市費で雇用。追加配置の日本

人教諭、日本語指導助手とチ

ームを組み、習熟度別に少

人数授業をする。成果も出始

外国人指導が必要な外国

人の子どもを抱える学校は全

国に広がる。

文部科学省の調査では06

年、公立の小学5高校に2万

2413人。調査を始めた91

以降、増加傾向にある。外国

人の子が多い地域では対策

が進む。群馬県太田市教育委

員会は4年前、「バイリンガ

ル教員」制度を導入した。日

本以外の教員免許を持つブラ

ジル人教師や、日本の教員免

許を取得した日系人ら8人を

市費で雇用。追加配置の日本

人教諭、日本語指導助手とチ

ームを組み、習熟度別に少

人数授業をする。成果も出始